

アルペンルートじゃない方の「立山」も歩こう！

ロングトレイル×フットパス 立山グランウォーク策定事業Ⅰ

立山町観光協会

1. 実施概要

(1) 目的

立山信仰に由来する立山古道（登拝道）を「ロングトレイル」、平野部に位置する中部北陸自然歩道と既存まちなか各コースを「まちなかフットパス※」として再定義し、町内全域においてロングトレイルとフットパスの融合を図ることを目的とする。コース利用者は町外入境者に加え、地元高齢者の利用も促進させることで、健康寿命の延伸にも役立てることを目標とする。

※フットパス (Foot Path) : 風景を楽しみながら歩くことができる小径

(2) 立山町・平野部の現状

今や世界的観光地となった町内山岳部を横断するアルペンルートだが、その平野部を観光客は素通りし、まちなかへの流入は皆無と言っていい。自然保護のためマイカーでの入山を禁止していることがツアーでの訪問を促進し、まちなか周遊の機会を奪うという皮肉な結果を生んでいる。

一方、世界的にはアメリカ、パシフィック・クレスト・トレイルを舞台にした小説「Wild」(2014)がヒット。主人公が1600kmを歩きながら自らと向き合うその姿に多くの人が共感し翌年に映画化、ロングトレイルがブームに。国内では四国八十八箇所霊場巡りが活況、サンティアゴ・デ・コンポステーラの巡礼路（スペイン世界遺産）とも提携し、海外からの「お遍路さん」も増加中。これらを受け、日本ロングトレイル協会が2015年発足、塩の道トレイルや金沢トレイルも登録され北陸でも徐々に身近なレジャーとなりつつある。

巡礼の道と言えば当地には立山信仰がある。明治に入るまで三大霊山の立山には全国から多くの参拝客が訪れ、町内には往時の遺構も多数見られる。歩いて参拝した言わばロングトレイルの原型がここにある。

一方でまちなかではフットパスを展開。ロングトレイルに先駆けること7年、イギリスの歩く文化を根底にした日本フットパス協会が設立。比較的短い距離を設定し、歩くスピードで地域の文化・歴史・産業・景観を楽しむ目的で各地で設定、同協会への登録は50箇所を超え、その多くで通過ドライブ型観光導線をまちなかに引き込み、集客に成功している。

(3) 事業内容

今年度の事業としては安全性を最優先に、以下のルートの調査の実施。それによるコースの策定、及び整備と維持にかかる費用算定、運営方法の確立と活用機会の企画立案を行う。

(ア) ルートの調査

(イ) 先進地の視察

- ①浅間・八ヶ岳パノラマトレイル
- ②なかもフットパス

(ウ) フットパスコースの策定

- ①五百石エリア ②岩嶽寺エリア

(エ) モニターツアーの実施

- ①モニターツアーコース事前調査
②モニターツアーコースマップ作成
③モニターツアー募集用チラシ作成
④モニターツアー実施

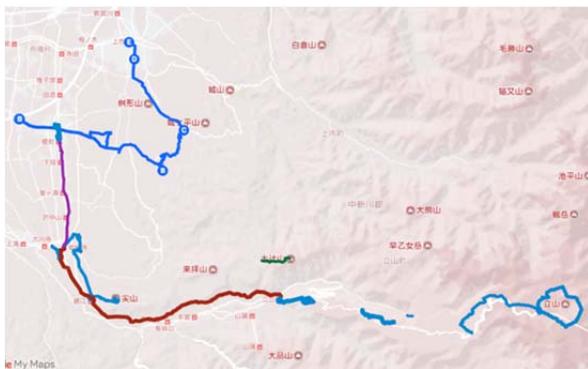
2. 実施報告

(ア) ルートの調査

[調査対象]

- ・立山古道（登拝道 滑川市～雄山山頂）
ロングトレイルに該当する古道の内、町内の8割程度を調査。
- ・立山山歩（立山町雇用創造協議会編）
フットパスとして、五百石エリア、岩嶽寺エリアコース策定の参考とし、調査。
- ・立山町ウォーキングマップ（立山町健康づくりボランティア連絡協議会）
同上。
- ・中部北陸自然歩道 越中瀬戸焼とグリーンパーク吉峰を訪ねるみち（環境省制定）
同上、その5割程度を調査。

町内調査履歴



(イ) 先進地の視察

[調査対象]

- ・浅間・八ヶ岳パノラマトレイル（長野県小諸市）及び周辺登山ルート

選考理由：日本ロングトレイル協会事務局所在地であり、5コース展開しているため。

調査日程：2018年2月24・25日 ヒアリング：日本ロングトレイル協会事務局 小島氏

所感：既に4コースが開通、隣接の2ロングトレイル（浅間ロングトレイル・八ヶ岳山麓スーパ

ートレイル)とも接続・関係している。コースも田畑、里山、断崖、牧草地、氷室など変化に富み、適度なアップダウンもあり、初心者も楽しめる。道標のデザインも落ち着いているが、その数はやや不足。しかしながら各コースに素晴らしい地図(有料)が作成され、道迷いを防いでいる。



・ななかまフットパス (福岡県中間市)

選考理由: フットパス全国大会 2017 実施。これまで観光が無かった市の取組を視察するため。

調査日程: 2018 年 1 月 25・26・27 日 ヒアリング: 中間市総合政策部世界遺産推進室 古本氏

所感: こちらも既に 5 コースが開通、今後 1 年に一コースずつ追加する予定。毎月イベントを実施し、市内外から集客する。現段階では目覚ましく集客効果が上がっている訳ではないが、中間市への理解の深まりと同時に、市民の郷土への再評価が始まっているとの事。こちらではフットパスの立ち上げから現在までの過程、そしてコース策定のノウハウを確認。



(ウ) フットパスコースの策定

調査対象から今年度は五百石エリアと岩嶽寺を抽出、仮コース策定に着手。

理由: 五百石エリアは町中心部でありアクセスが良く参加しやすい。岩嶽寺エリアは立山信仰ゆかりの対象物が多く参加希望者の耳目を集め、周知に役立つと思料した。

(エ) モニターツアーの実施

五百石駅を中心に実施された「たてぶん(立山まちなか文化祭)」の開催に合わせ「立山まちなかフットパスモニターツアー」を実施。コースマップと募集用チラシを作成し集客に努める。

①モニターツアーコース事前調査

立山山歩（立山町雇用創造協議会編）より、上記理由により選定した2つのコースに関し、事前調査を実施

◆調査実施日 平成29年9月25日

◆実施コース

<立山山歩1>「レトロ駅舎から岩嶽寺（立山参道）を歩く」 発着地点 岩嶽寺駅

<立山山歩8>「五百石を歩く」 発着地点 五百石駅

◆調査内容

- ・立山山歩に掲載されている、各スポットの確認と撮影
- ・コースルートの安全性、及び歩行距離や所要時間の確認
- ・道中における地元の方々へのヒアリング調査

②モニターツアーコースマップ作成

立山山歩の資料に基づき、モニターツアーで配布するコースマップを作成。

③モニターツアー募集用チラシ作成

モニターツアー募集用チラシ作成（A4サイズ 片面印刷）。

10,000枚印刷し、町内広報誌たてやまに折り込む形で、立山町内全世帯に配布、町拠点施設に設置。

④モニターツアー実施

◆平成29年11月18日（土）

「五百石を歩く」 天気：雨 気温：13度

申込者数：16名 参加者数：15名 ガイド1名・スタッフ2名

【コース】①9：30 五百石駅前出発→②立山製紙(株)→③五百石天満社→④歩行者たまり空間→⑤信了寺→⑥裏路地→⑦稲荷神社→⑧五百石商店街→⑨11：30 五百石駅前到着



全ルートにおいて、ボランティアガイド、氏子、住職による説明付き

◆平成29年11月19日（日） 「レトロ駅舎から岩嶽寺（立山参道）を歩く」

天気：曇り 気温：9度

申込者数：20名 参加者数：18名ガイド1名・スタッフ2名

【コース】①9：30 岩嶽寺駅前出発→②境界石→③雄山神社→④一石一字経塚→⑤湯立の釜→
⑥摂社・末社（雄山神社）→⑦常願寺川→⑧拝殿（雄山神社）→⑨谷の宿坊跡地→
⑩文殊菩薩→⑪百体地藏→11：40 岩嶽寺駅前到着



全ルートにおいて、ボランティアガイド（2名）による説明付き

⑤モニター実施内容のとりまとめ

・選定コースについて

今回実施したモニターツアーは、2種類のコースを設定することで、気軽に参加したい人から長い距離を歩きたい人まで、両者の参加が可能となった。参加者の年齢は60歳以上が多くを占めていたが、ボランティアガイドの説明に熱心にメモを取る方から、コース途中の花や木々の観賞を楽しまれる方まで、参加者は自身のペースで回遊されていた。

今回、募集チラシの配布地域が立山町内のみであったことから、参加者は町民がほとんどを占めており、ボランティアガイドの説明に昔を懐かしむ方も多く見受けられた。また五百石コースでは、途中で町民でも普段通らない小径を組み込んだことが大変好評であったことが、アンケート結果からも分かる。

・実施時期について

今回は「たてぶん」の開催日に合わせるため11月中旬の実施となったが、10月上旬から中旬にかけての開催であれば、天候や景観も考慮できる。また、参加者はボランティアガイドによる草木や花の説明にも興味深く耳を傾けていたことから、新緑の季節も実施時期としては適していると思われる。

・その他

モニターツアーコースは立山山歩に基づく内容であったが、実際に事前調査で歩いてみると、すでに存在しないスポットがいくつも見受けられた。立山山歩発刊のための調査から数年が経過していると考えられるため、事前の調査は必須である。

立山山歩以外にも、町や関係団体がまとめたウォーキングルートマップは数多くあるので、資料を参考に歩行距離を伸ばしていければ、アルペンルートだけではなく、まちなかと中山間地域及び山間部を結びつけるロングトレイルルートを確立できると考える。地元の人のみならず、様々な方面から立山町の地を訪問するきっかけ作り、またロングトレイルとフットパスの融合を図るためにも、本事業は継続していく必要がある。

3. まとめ

調査対象コースを実際に歩き、立山町の町域の広さと多様さ、そして北アルプスの眺望に改めて感銘を受けた。古人（いにしえびと）が山を畏怖し、山の恵の水に感謝した景色が、今も変わらずここにある。今は立山黒部アルペンルートが存在が大きすぎて、或いはその観光の光が眩しくて気付きにくい立山の里の価値を、古人同様に歩く速度で感じるからこそ、現代人が失ったものであり取り戻すべきものである。そしてそれは国際的に通用する価値観ではないかとさえ考える。フットパスとロングトレイル、今年度の調査においては何れも実現可能で安全に利用できるものであり、活用できるものと判断した※。

各ルートを構成する「道」は管理者がそれぞれだが、共通の小さな道標を設け大きな費用を掛けずに利用できる。それよりも地権者や地域住民の理解を得ることこそが難題で、且つその後の飛躍にも繋がるものと理解している。現在は観光協会ではほぼ一人で取り組んでいるが、地元住民と協力して策定していく必要があると痛感している。

※立山古道は一部失われてはいるが、並行する歩くアルペンルートのコースで代替可能である

4. 今後の取組

フットパスコースでのモニターを継続し周知を図ると同時に、町中心部から雄山頂上までのかつての登拝道（立山古道）を、一度に歩いて登る2泊3日のスルーハイクを実施し、ロングトレイル周知につなげるデモンストレーションを実施するなど、活用と情報発信を同時進行し、歩く文化の定着、健康増進、観光資源創造・再発見、観光振興、シビックプライドの醸成を進めていく。